

記者発表資料
発表後取扱自由

国営沖縄記念公園整備・管理運営プログラム（案） に関するパブリックコメントの実施について

記者発表資料

公共事業の推進に当たっては、情報公開に努めるとともに、国民の皆様から公共事業に対する理解を深め、支援を得ていくことが不可欠であるという観点から、全国の国営公園事業について、平成20年度に「国営公園整備プログラム」を策定・公表し、本プログラムに基づき事業を執行して参りました。

そして、今後も引き続き国営公園事業の透明化と計画的な執行を図るため、平成28年度までの整備及び管理運営の方針等に関する「国営公園整備・管理運営プログラム」を策定・公表し、着実な事業の推進を図ることとしております。

つきましては、国営沖縄記念公園事務所においても「国営沖縄記念公園整備・管理運営プログラム（案）」を作成いたしましたので、下記のとおり皆様からの意見を募集いたします。

沖縄総合事務局

平成25年3月8日

記者発表

沖縄総合事務局記者クラブ

問い合わせ先

内閣府 沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所

工務課 課長 森田 陽弘

工務係長 中山 弘

TEL0980-48-3140

国営沖縄記念公園整備・管理運営プログラム（案） に関するパブリックコメントの実施について

公共事業の推進に当たっては、情報公開に努めるとともに、国民の皆様から公共事業に対する理解を深め、支援を得ていくことが不可欠であるという観点から、全国の国営公園事業について、平成20年度に「国営公園整備プログラム」を策定・公表し、本プログラムに基づき事業を執行して参りました。

そして、今後も引き続き国営公園事業の透明化と計画的な執行を図るため、平成28年度までの整備及び管理運営の方針等に関する「国営公園整備・管理運営プログラム」を策定・公表し、着実な事業の推進を図ることとしております。

つきましては、国営沖縄記念公園事務所においても「国営沖縄記念公園整備・管理運営プログラム（案）」を作成いたしましたので、下記のとおり皆様からの意見を募集いたします。

【意見募集要領】

1. 資料入手方法

意見募集対象となる整備・管理運営プログラム（案）は、国営沖縄記念公園事務所ホームページ（<http://www.dc.ogb.go.jp/kouen/>）でデータをダウンロードしてご覧下さい。（下記添付のPDF資料）

2. 意見募集対象資料及び意見提出様式

⇒[国営沖縄記念公園整備・管理運営プログラム（案）【PDFファイル】](#)

3. 意見の提出方法

ご意見は、電子メールまたは、ファクシミリに下記事項を記入のうえ提出下さい。なお、所定の応募様式はございませんので、電子メールの場合は、メール本文に直接記入のうえ提出下さい。添付ファイル等による提出はご遠慮下さい。

（お電話によるご意見は受け付けておりませんので、ご了承下さい。）

ご意見記載内容

- ・氏名（ふりがな）
- ・住所
- ・所属（団体名）（部署名）
- ・電話番号
- ・メールアドレス
- ・ご意見（ご意見）（理由）

4. 意見募集期間

平成25年3月8日（金）～平成25年3月21日（木）17時まで

5. 留意事項

- 1) 提出意見を考慮した結果及びその理由については、当該整備・管理運営プログラム策定時に公表いたします。
- 2) ご記入いただいた氏名（法人等にあたってはその名称）、住所（所在地）、電話番号、電子メールアドレスは、提出意見の内容に不明な点があった場合等の連絡・確認のためにのみ利用します。
- 3) 意見に対する個別の回答はいたしかねますので、あらかじめご了承下さい。

6. 担当窓口

内閣府 沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所 工務課

工務課長：森田 陽弘

工務係長：中山 弘

電話：0980-48-3140、FAX番号：0908-48-3793

電子メール：[（メールでのご意見はこちらをクリック）](#)

国営沖縄記念公園 整備・管理運営プログラム(案)



平成25年3月
内閣府 沖縄総合事務局
国営沖縄記念公園事務所

はじめに

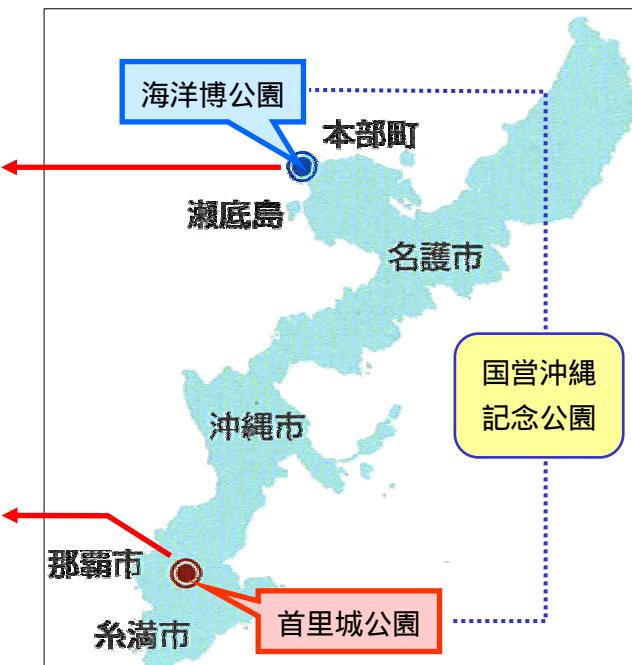
国営沖縄記念公園は、沖縄の本土復帰を記念する事業の一環として、昭和50年に開催された「沖縄国際海洋博覧会」の跡地に設置した「海洋博覧会地区」（以下「海洋博公園」という。）と、昭和61年度より首里城の復元を進めている「首里城地区」（以下「首里城公園」という。）があります。

平成23年度の公園入園者数は、海洋博公園、首里城公園合わせて約558万人で、県外から沖縄へ訪れた入域観光客数約553万人を上回る人数となっています。

このように、国営沖縄記念公園は沖縄観光振興の拠点、我が国を代表する歴史的遺産の継承という重要な役割を担っており、今後も、安全で快適な、そして魅力あふれる満足度の高い公園整備と管理運営を行っていきます。

本プログラムは、国営沖縄記念公園（海洋博公園、首里城公園）の整備・管理運営の基本的な方向性を定めた「海洋博公園基本計画」及び「首里城地区整備計画」等の進捗状況を踏まえ、平成24年度～28年度の5カ年間の公園整備及び管理運営の方針を示したものです。

なお、本プログラムは、事業の進捗状況等を踏まえ、適宜見直しを行っていきます。



I. 全体計画及び開園状況

1. 海洋博公園

位置	沖縄県国頭郡本部町
都市計画決定面積	約 77.2 ha
開園面積	約 71.8 ha
整備着手年度	昭和 50 年度
供用開始年度	昭和 51 年度
公園の基本テーマ	「太陽と花と海」

基本方針

- 沖縄にふさわしい公園とともに、沖縄の持続的な観光振興の中核となる公園とします。
- 沖縄国際海洋博覧会の記念事業としてふさわしい公園とします。
- 日本だけでなく外国の人々にも利用される公園とします。
- 海との調和を十分考慮します。
- 亜熱帯性気候を十分考慮し、四季を通じて利用出来るものとします。
- 歴史的・文化的資源を生かした公園とします。

海洋博覧会継承施設



海洋博公園現況図

2. 首里城公園

位置	： 沖縄県那覇市
都市計画決定面積	： 約 4.7 ha
開園面積	： 約 2.8 ha
整備着手年度	： 昭和 61 年度
供用開始年度	： 平成 4 年度

基本方針

- ・県の「首里城構想」との整合性及び歴史的風致に配慮した施設配置計画を行います。
- ・歴史・文化の拠点として魅力ある施設整備を図ります。
- ・将来に向かって沖縄の歴史・文化の拠点となるよう多様な活用を図ります。
- ・文化遺産の鑑賞、見学、体験という観光形態の充実を目指します。



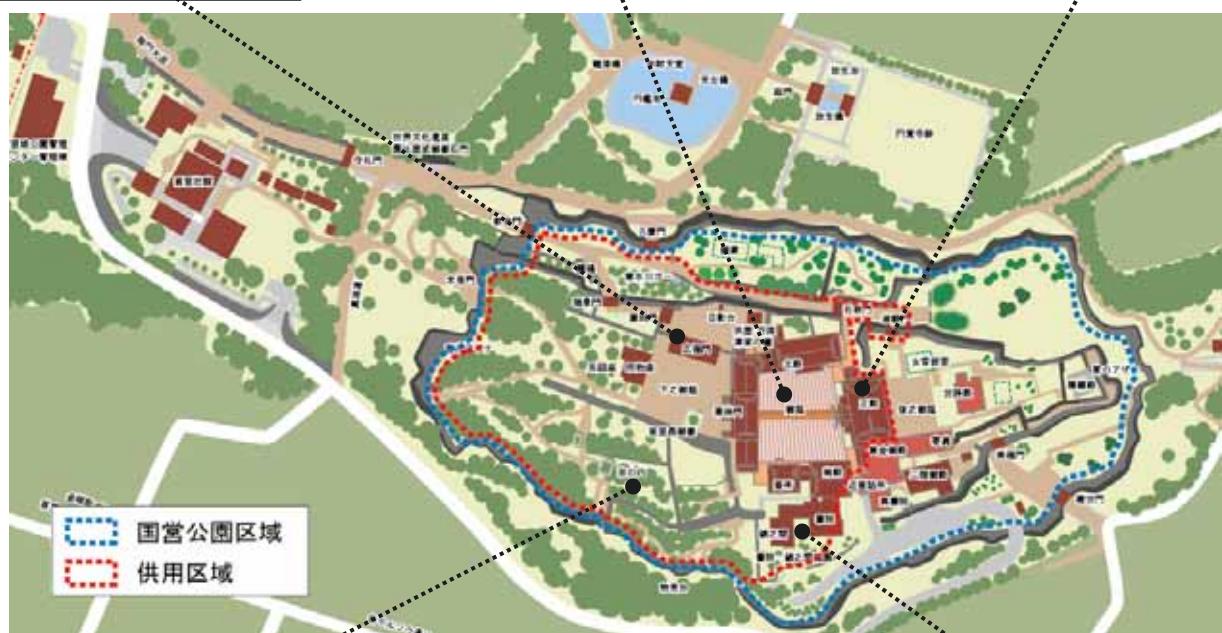
広福門



御庭



正殿



京の内

首里城公園計画図



書院・鏡の間

3. 供用の経緯と入園者数の変化

(1) 供用の経緯

海洋博公園

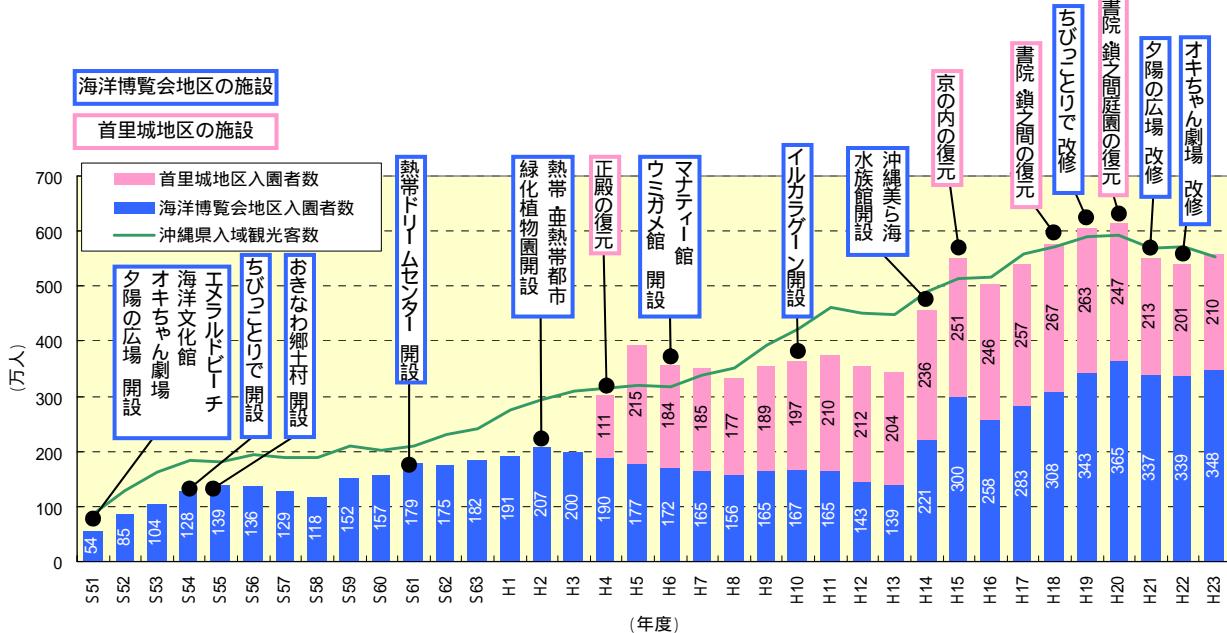
年代	事項
昭和 50 年	沖縄国際海洋博覧会跡地の公園設置を閣議決定
昭和 51 年	国営沖縄海洋博覧会記念公園開園（供用面積 36ha）
昭和 54 年	ちびっこりで、中央ゲート駐車場オープン（供用面積 43ha）
昭和 55 年	おきなわ郷土村、おもろ植物園、東駐車場開園（供用面積 48ha）
昭和 61 年	熱帯ドリームセンター開園（供用面積 60ha）
平成 2 年	熱帯・亜熱帯都市緑化植物園開園（供用面積 69ha）
平成 6 年	マナティー館、ウミガメ館オープン
平成 11 年	南地区エントランスゾーン開園（供用面積 70.7ha）
平成 14 年	新水族館（沖縄美ら海水族館）開館
平成 15 年	総合案内所（ハイサイプラザ）オープン（供用面積 71.6ha）
平成 22 年	オキちゃん劇場リニューアルオープン
平成 24 年	美ら海プラザ、エメラルドゲート・駐車場オープン（供用面積 71.8ha）

首里城公園

年代	事項
昭和 59 年	沖縄県が「首里城公園基本計画」を策定
昭和 61 年	首里城跡の「国営沖縄記念公園首里地区」としての整備を閣議決定
昭和 62 年	首里城公園（17.8ha）を都市計画決定
平成元年	首里城正殿建築工事に事業着手
平成 4 年	首里城地区一部開園（供用面積 1.7ha）
平成 9 年	歓会門、久慶門内側周辺供用（供用面積 1.8ha）
平成 12 年	首里城跡地の世界遺産登録
平成 15 年	京の内供用（供用面積 2.5ha）
平成 19 年	書院・鎖之間供用（供用面積 2.6ha）
平成 20 年	書院・鎖之間庭園供用（供用面積 2.7ha）
平成 22 年	淑順門供用（供用面積 2.8ha）

(2) 公園入園者数の推移

国営沖縄記念公園は施設整備に伴い、入園者数を増やしており、平成 23 年度の年間入園者数は、海洋博公園で約 350 万人、首里城公園で約 210 万人となっている。



国営沖縄記念公園（海洋博公園、首里城公園）は平成 29 年度事業をもって、公園区域全域を概成開園できるように整備を進めます。

1. 平成 28 年度までの整備・管理運営の重点項目

（1）海洋博公園

整備に係る重点項目

「海洋博公園基本計画 H20.5 更新」に基づく、旧水族館跡地周辺の整備や、海洋文化館のリニューアル、夕陽の広場の再整備などの主要な整備はほぼ終了しました。

平成 28 年度までの事業としては公園南側エリアにおいて、海岸環境の活用、移動手段や移動環境等の向上を図ることによりエリアの魅力を高め、公園全体の利用促進を進めます。

また、老朽化施設の更新により利用者の利便性・快適性を高めると共に、施設・設備の省エネルギー化、自然エネルギーの活用により環境負荷を低減します。

あわせて、防災システムの充実により、利用者が安全・安心に利用できる公園づくりを進めます。

管理運営に係る重点項目

基本テーマである、「太陽・海・花」を体験し、快適に過ごすことが出来る、利用者満足度の高い公園を目指します。

特に沖縄の歴史・文化や海洋文化、自然環境について楽しく学べるよう、公園施設を活かし、行催事の充実を図っていきます。

また、多様な主体との連携や情報発信に取り組み、沖縄の持続的な観光振興の中核となる公園としての運営を行います。

（2）首里城公園

整備に係る重点項目

御内原（国王・家族や多くの女官たちの「生活や儀礼の空間」）や美福門等を復元整備し、整備済の正殿等「行政空間」、京の内「祭祀空間」と一体となった施設運営を行うことで、琉球の歴史・文化にふれあえる首里城としての魅力を高めます。

また、多目的空間、休憩施設、園内動線等を充実させることで、より利用しやすい公園としての魅力を高めます。

管理運営に係る重点項目

今後整備される施設を含め、より深みのある首里城を演出し、利用者サービスの向上に努めます。

琉球王朝時代の行催事の再現と沖縄の伝統芸能等のイベントを行います。

収集・復元した琉球王朝時代の美術工芸品を活用した企画展示等を実施します。

地域と連携した情報発信や連携事業を実施します。

2. 海洋博公園の整備及び管理運営方針

(1) 整備方針

公園南側エリアの利用促進

- ・熱帯ドリームセンター、熱帯・亜熱帯都市緑化植物園のある公園南側エリアは、美ら海水族館等の集客施設から離れており、利用者が比較的少ない状況です。
- ・南側エリアの利用促進のため、イノー（礁池）等の海岸環境の活用方策を検討し、遊歩道等の必要な施設整備を行います。
- ・公園南工エリアの利用促進、公園周辺地域との一体利用のために、園内への自転車導入を図るため、自転車導入の効果や安全性を社会実験により確認し、必要な施設整備を検討します。



砂浜とイノー（礁池）

老朽化施設の更新

- ・園内には、多数の施設が設置されていますが、その多くは海洋博覧会当時に整備され、耐用年数が過ぎた施設も多く、老朽化が進んでいます。
- ・老朽化施設については、施設・設備の劣化の程度を調査して、計画的に施設改修・更新を進めます。



改修予定の冷水プラント

省エネルギー、自然エネルギーの活用

- ・施設・設備の改修・更新にあたっては、LED電球使用や屋上緑化、高効率機器の選定、受変電設備の更新により省エネルギー化を図り、公園のエネルギー消費量を削減します。
- ・また、太陽光発電等の自然エネルギーの導入や、CO₂排出量の少ない機器を導入し、温室効果ガスの排出を削減します。



美ら海プラザの太陽光発電例

防災システムの充実

- ・海洋博公園は沿岸部にあるため、大規模地震発生時に津波被害の危険性があります。また、突然の天候の変化による風雨や波浪被害の危険性もあります。
- ・これらの緊急時等に利用者の安全を確保するために、園内の通信・放送設備、カメラ設備、中央監視施設等の防災システムを充実させます。

駐車場の整備

- ・現在の駐車場の混雑緩和を図るとともに、今後の駐車場の需要の変化に対応するために、中央南駐車場等の整備計画を作成し整備を進めます。

公園の魅力を高める景観形成

- ・施設整備においては、施設規模、形状、色彩等について、景観専門家の意見を聞きながら、景観に配慮した整備を進めます。
- ・海と島を望む良好な眺望景観を楽しめるように、海岸遊歩道等の視点場からの眺望を阻害している樹木の整形や外来植物の除去を行います。



樹木による眺望阻害の例

(2) 管理運営方針

安全・安心な公園管理の推進

- ・遊具等の公園施設の点検を定期的に行い施設の安全性を維持すると共に、園内巡視や交通誘導を継続的に実施することにより、利用者が安全に安心して公園を利用できるようにします。

長寿命化計画に基づくライフサイクルコストの縮減

- ・公園施設の長寿命化計画を策定し、効果的・戦略的な施設の維持管理を行い、ライフサイクルコストを縮減します。

公園全体の魅力向上

- ・沖縄の亜熱帯気候を活かした四季折々の魅力を感じさせる草花展示、海辺環境を楽しめる海岸域の利用促進を進めると共に、利用者サービスの向上に努め、公園全体の魅力を向上させます。



美ら海花まつり

環境の保全・活用

- ・美ら海プラザ、熱帯ドリームセンター、夕陽の広場レストハウス及び熱帯・亜熱帯都市緑化植物園等で、沖縄の海の自然環境や亜熱帯動植物に関する講習会や企画展を開催します。
- ・イノー、エメラルドビーチ等の海岸環境を活かした、環境教育プログラムや企画展等の環境教育を推進します。
- ・海洋生物や希少植物の保護・育成の研究成果を公園の管理運営に反映し、環境教育や環境保全に活用します。



ウミガメ体験学習



ウミガメ放流

環境教育プログラムの実施例

歴史・文化の継承・展開

- ・おきなわ郷土村や海洋文化館等において、沖縄の歴史・文化、海洋文化を紹介すると共に、沖縄の歴史・文化、海洋文化を実感できる、行催事や企画展を開催します。



おきなわ郷土村での三線演奏体験

ユニバーサルデザインの推進

- ・高齢者や外国人等、多様な利用者が公園を快適に安全に楽しめるように、車イス用のリフト付遊覧車の運行、点字ガイドの作成、案内の多言語対応等の取組みを継続して推進します。



4言語を使った案内盤

地域との連携の強化

- ・沖縄県が実施する誘客事業と連動した誘客推進事業を実施して、沖縄の観光振興に貢献します。
- ・北部地域と連携した北部観光情報の発信や連携事業により、北部地域の振興に貢献します。
- ・公園の管理運営に役立てるため、大学等との技術的連携を推進します。



本部町と共に催の行催事例

国際交流の推進

- ・海洋博公園として沖縄国際海洋博覧会の理念に基づき、アジア・太平洋地域との国際連携、学術連携、技術連携を進めます。

(3) 事業効果

施設の整備により、公園の魅力や利便性が高まり、利用者の満足度向上と利用者数の増加が見込まれます。

施設の更新により、公園機能が改善され、環境負荷の低減、公園利用の安全性向上が期待できます。

行催事の実施により、公園の優れた環境の保全と活用、沖縄の自然環境や歴史・文化への理解と継承が期待できます。

公園の利用促進、北部地域との連携により、沖縄の観光振興に貢献することが期待できます。

3. 首里城公園の整備及び管理運営方針

(1) 整備方針

未供用区域の復元整備

- ・黄金御殿・寄満、近習詰所、奥書院は、国王動線と生活空間の再現、展示・収蔵、休憩、便益施設として整備を行います。
- ・御内原（おうちばら）は、往時空間を再現し、学習、休憩、イベント等で利用ができるよう、広場（後之御庭（くしのうなー）等）、建物（世誇殿（よほこりでん）等）、外構等の復元整備を行います。
- ・北城郭エリア、南城郭エリアは、往時空間を再現し、休憩や多目的空間として利用できるよう、造成、石積等の外構、植栽等の整備を行います。
- ・繼世門・美福門エリアは、美福門の復元等により往時空間を再現するとともに、城郭内への東側出入り口として整備を行います。



復元施設の維持

- ・復元施設である、広福門、櫓門（瑞泉門、漏刻門、右掖門）等の老朽化を防ぐため、漆の塗り替えを行います。
- ・その他の施設についても、施設・設備の劣化の程度を調査して、計画的に施設改修・更新を進めます。



広福門

（2）管理運営方針

公園全体の魅力向上

- ・沖縄県管理区域(外郭とその外側)とのより一層の連携を図るとともに、今後整備される施設と既存施設が一体となり、より深みのある琉球の歴史・文化にふれあえる首里城を演出するとともに、利用者サービスの向上に努め、公園全体の魅力を高めます。

長寿命化計画に基づくライフサイクルコストの縮減

- ・公園施設の長寿命化計画を策定し、効果的・戦略的な施設の維持管理を行い、ライフサイクルコストを縮減します。

歴史・文化の継承・展開

- ・琉球王朝時代に行われていた行催事の再現イベントや、沖縄の伝統芸能等を体験できるイベントを、地域との連携を図り開催します。
- ・歴史衣装着用による利用案内、収集・復元した美術工芸品を活用した企画展示会を実施します。



新春の宴

地域との連携の強化

- ・沖縄県が実施する誘客事業と連動した国内外の誘客推進事業、地域と連携した情報発信や連携事業を推進します。

ユニバーサルデザインの推進

- ・高齢者や外国人等、多様な利用者が公園を快適かつ安全に楽しめるように、点字ガイドの作成、案内の多言語対応等の取組みを継続して推進します。

（3）事業効果

施設の整備により、貴重な文化遺産である首里城の復元整備が進みます。

施設の整備と利用者サービスの向上により、公園の魅力や利便性が高まり、利用者の満足度向上と利用者数の増加が見込まれます。

行催事や企画展示の実施により、琉球王朝時代の歴史・文化への理解と継承が期待できます。

公園の利用促進、地域との連携により、沖縄の観光振興に貢献することが期待できます。